

ひとひと
「女と男」がともに輝くまちの実現をめざして

男女共同参画

～第3次十和田市男女共同参画社会推進計画の策定に向けて

市民の声を聞きました～

問総務課 ☎ 6702

市では、これまで取り組んできた「第2次十和田市男女共同参画社会推進計画」の計画期間が本年度で満了することから、これからの5年間の男女共同参画のまちづくりを総合的かつ計画的に推進するため、第3次計画を策定しています。

男女共同参画に対する市民の声を聞きました

第3次計画の策定に当たり、市民の皆さんの声を聞き、実情に合った計画を策定するために十和田市男女共同参画懇話会、市民意見交換会、市民アンケートを行いました。



十和田市男女共同参画懇話会とは

本市の男女共同参画社会の推進に関し、市民の意見および要望を聞くために設置するもので、本年度は、第3次計画策定のために設置しました。

人権や教育、保育、防災、まちづくりなどの各分野に携わる14人で構成されています。

市民意見交換会とは

懇話会と同様に、男女共同参画社会の推進に関する市民の意見や要望を聞くために開催しました。

市民の視点から、男女共同参画について日頃感じていることなどについて意見交換をしました。

懇話会で寄せられた意見

- 「安心して暮らせる生活環境づくり」について
性別ごとに抱える困難は違うものであり、特に女性が抱える問題はより複合的であることを踏まえて策定してほしい。
- 「母子保健の充実」について
若年妊娠・出産などに対する支援などを計画に盛り込んでほしい。
- 計画全体について
「結婚や出産はまだか」というような、固定的な性別役割分担の押し付けなどが、若い女性の県外流出の原因の一つになっている。数字や表に現れない部分の改善にも取り組んでほしい。

懇話会・市民意見交換会で寄せられた「日頃、男女共同参画について感じること」

- ◇ 35年前の保育園ではほとんど見かけなかったお父さんの姿を最近では見るようになり、子育てが夫婦で協力的に行われていると感じる。
- ◇ 女性が自衛隊に就職したり、男性が保育士になったり、性別による職業の選択肢の差が無くなってきた。
- ◇ 以前は女性の受け入れが無かった業種でも、最近は受け入れが増えてきたが、中にはハラスメントがあるとも聞いている。
- ◇ 男性が赤ちゃんを抱っこしている姿が珍しくなくなった。
- ◇ 男性用トイレに赤ちゃんのオムツ交換台が無いところが多い。男性の育児参加のためにハード面も整えてほしい。

「十和田市男女共同参画社会」に関する市民アンケート

市民アンケートの自由記載欄に寄せられたご意見の一部をご紹介します。

- 60代男性
周りに男女共同参画に関する問題がないので、身近なこととして考えることがない。
- 40代女性
仕事で役職に就くと、責任は同じく持たされる割には、性別によって手当などに差があるように感じる。
- 40代男性
女性も男女平等と言いながら、困ったときは男性任せで、結果として昇格や賃金に差がついても仕方がない。
- 30代男性
どちらかという、若い人より、年配の人に男女共同参画が浸透していないと感じる。ターゲットを絞った取り組みが必要ではないか。
- 40代男性
LGBT※の取り組みを行っても、その枠にも当てはまらない人はさらに差別されてしまうのではないかと。
※性的少数派の総称の一つ

- 20代男性
地域活動への参加に対する恩恵がないのが問題だと思う。
- 20代女性
小学校の性の授業を男女で分けずに行い、互いの性の理解促進につなげてほしい。
- 50代男性
女性がそこまで男女共同参画を求めているのか疑問に思う。
- 30代女性
フルタイムで働き、家事も育児もこなし、自分の時間が少ない。体は一つしかないのに母親の責任が重すぎる。
- 50代女性
男性は表面上の手伝いではなく、家族の一員として責任を持ってほしい。1つでも手伝ってもらえるのが十分助けになることを知ってほしい。
- 60代女性
昔に比べ、だいぶ男女差がなくなったと思う。

たくさんのご意見ありがとうございます。

寄せられた意見などは第3次十和田市男女共同参画社会推進計画の策定に役立てます。